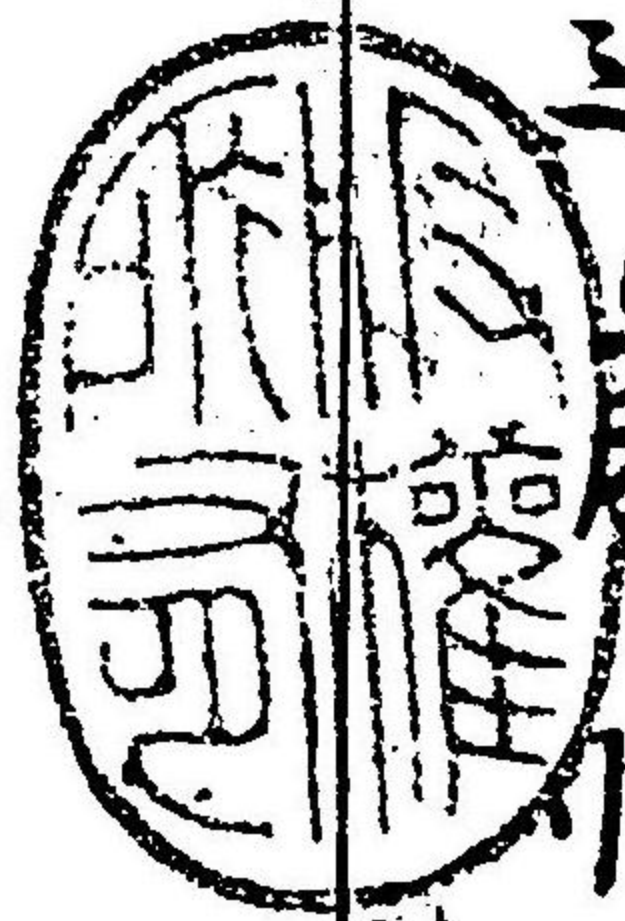


405  
14

畏三樓花刺

東	京	圖	書	館
門	類	兩	架	冊

近藤恆翁著



畏三樓花刺

味草

近藤花莊版

東福寺長老淺草教仲君



粘華破顏者  
孰是附興之  
穢相得哉



東福寺管七淺草散付君  
此種機  
相得哉  
是所興之  
華破顏者

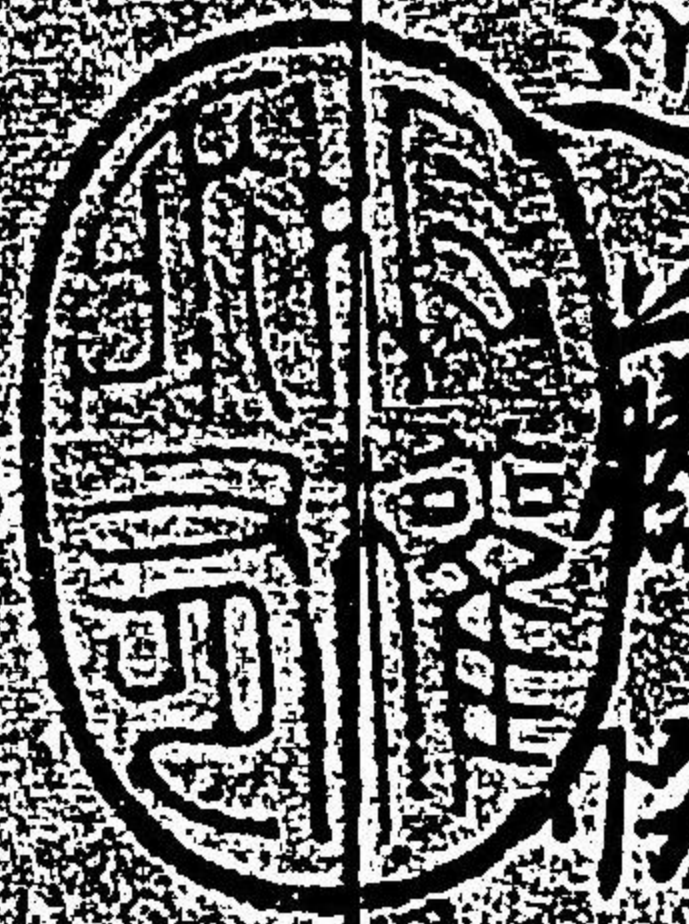


近藤花莊著

畏三樓花刺

法華

近藤花莊版

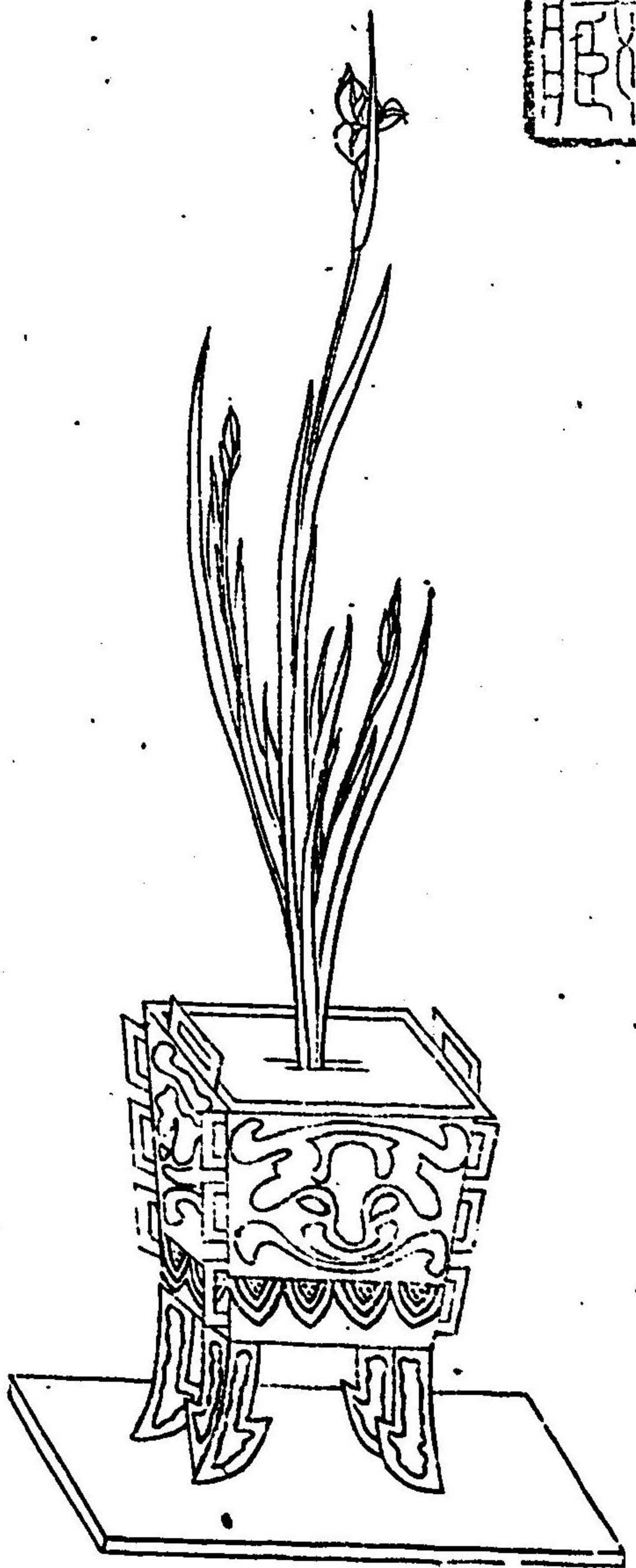


斗室曰生花之自儀  
在現之年  
明治廿九年春三月考  
畏三樓主人  
現來福管共  
敬沖

一  
本  
集  
卷  
之  
九  
九  
九

釋尊を隆李利弗と文殊より此皆存下の善菩薩五に相  
 摩するの道也予は幼より一を家元宗師に於て神花の古  
 蹟と前年ありける警策と頂にまると密に三百構のな  
 かりありて未だ指弄幽笑のま理を了りて家に花刺を  
 偏く同門の先達に爲め指示し導きとせけんといふは亦  
 の解をわんりる慈苑の花鶴林の香よりん心理妙法に  
 笑くは甘露同味此智識達は名を憐して慈苑此誠評  
 報策を賜はるる香意の老解迷邪を破り復幸なる當  
 其より此の日記心手くは畏三樓花の多刺といふ

明治三十三年三月 編者 格翁彦



總會頭職 三枝軒鶴洲  
 七父 棚橋策馬  
 美濃國安八郡柳俣村住

昭和三十二年九月十七日於  
伊奈波神社

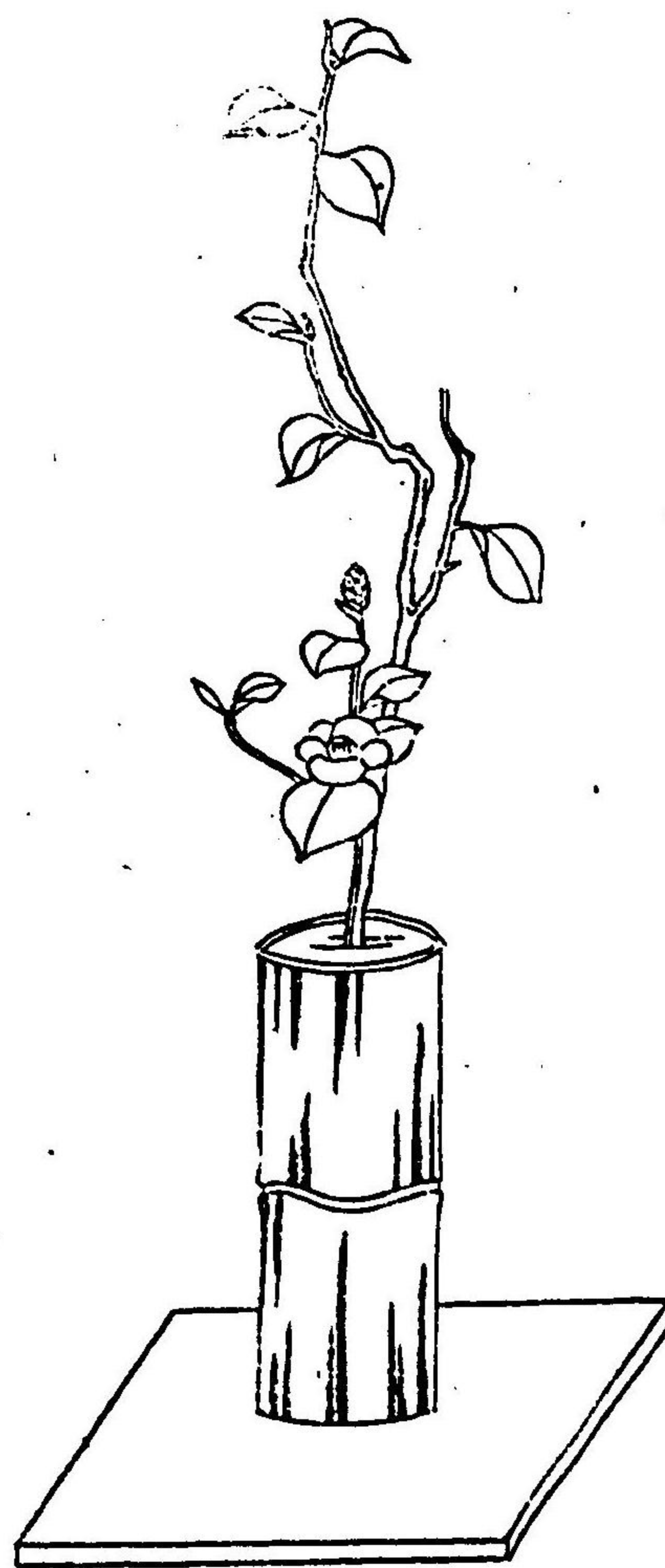
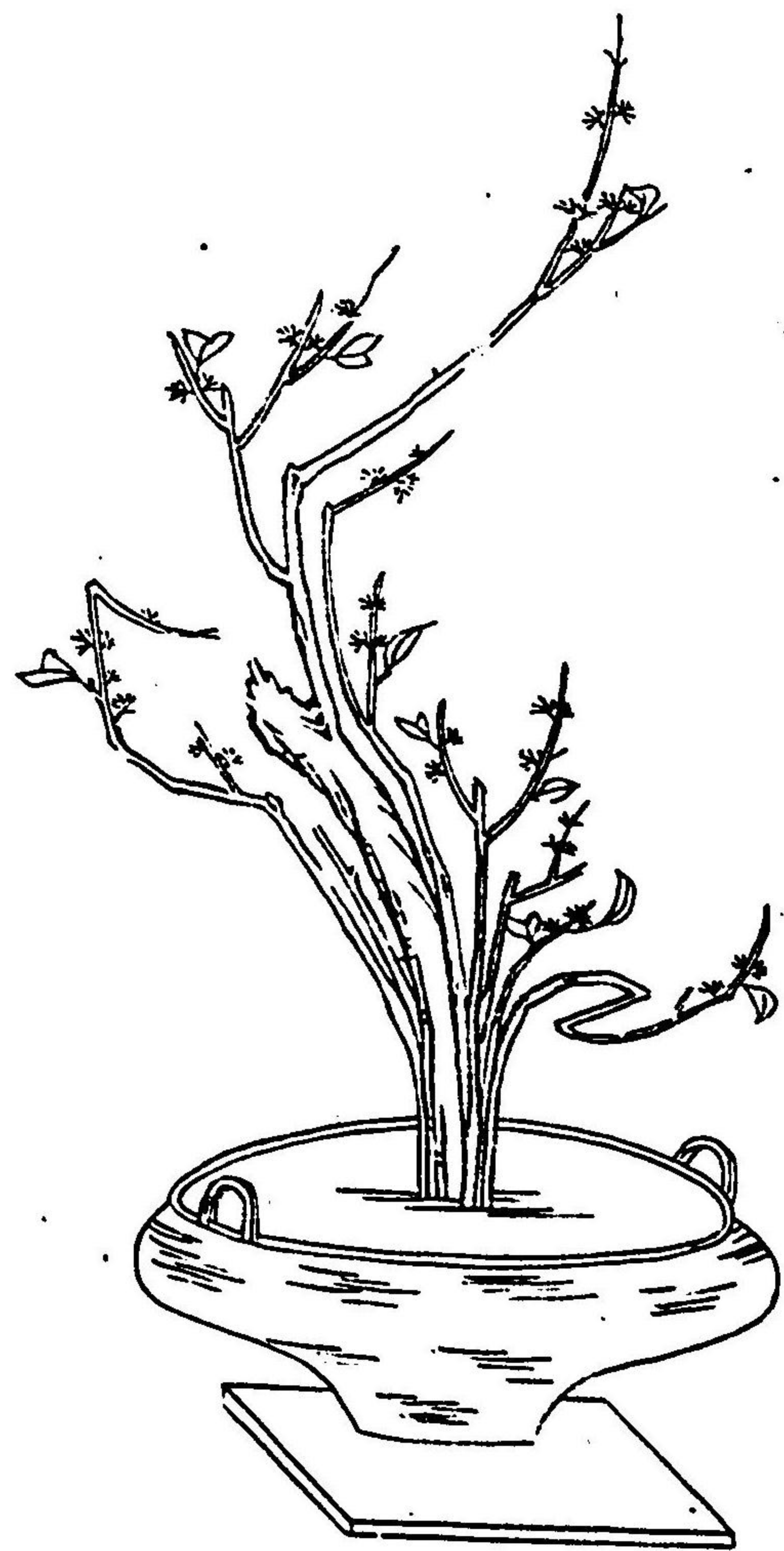


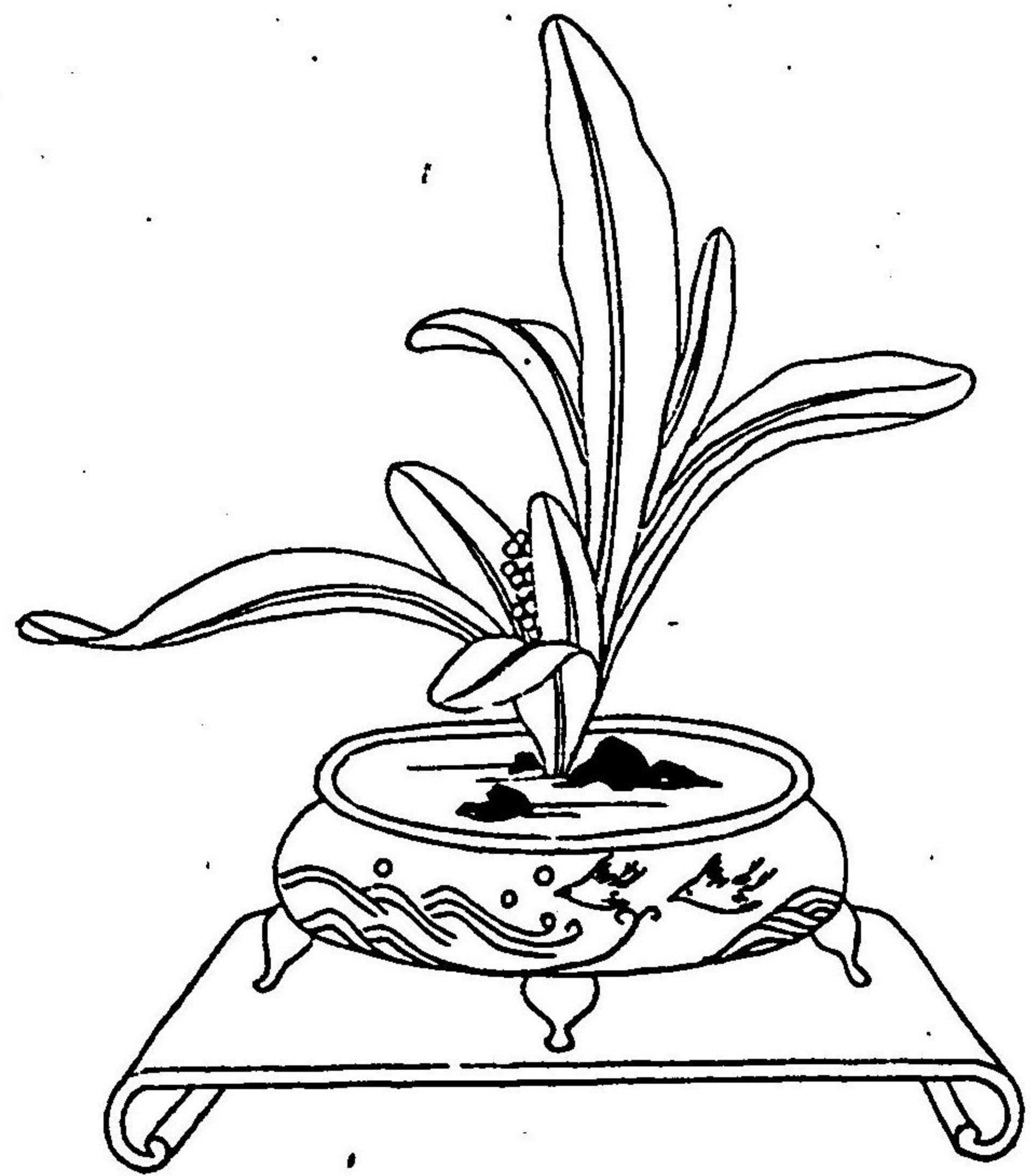
拜殿中央に奉置

表面之圖

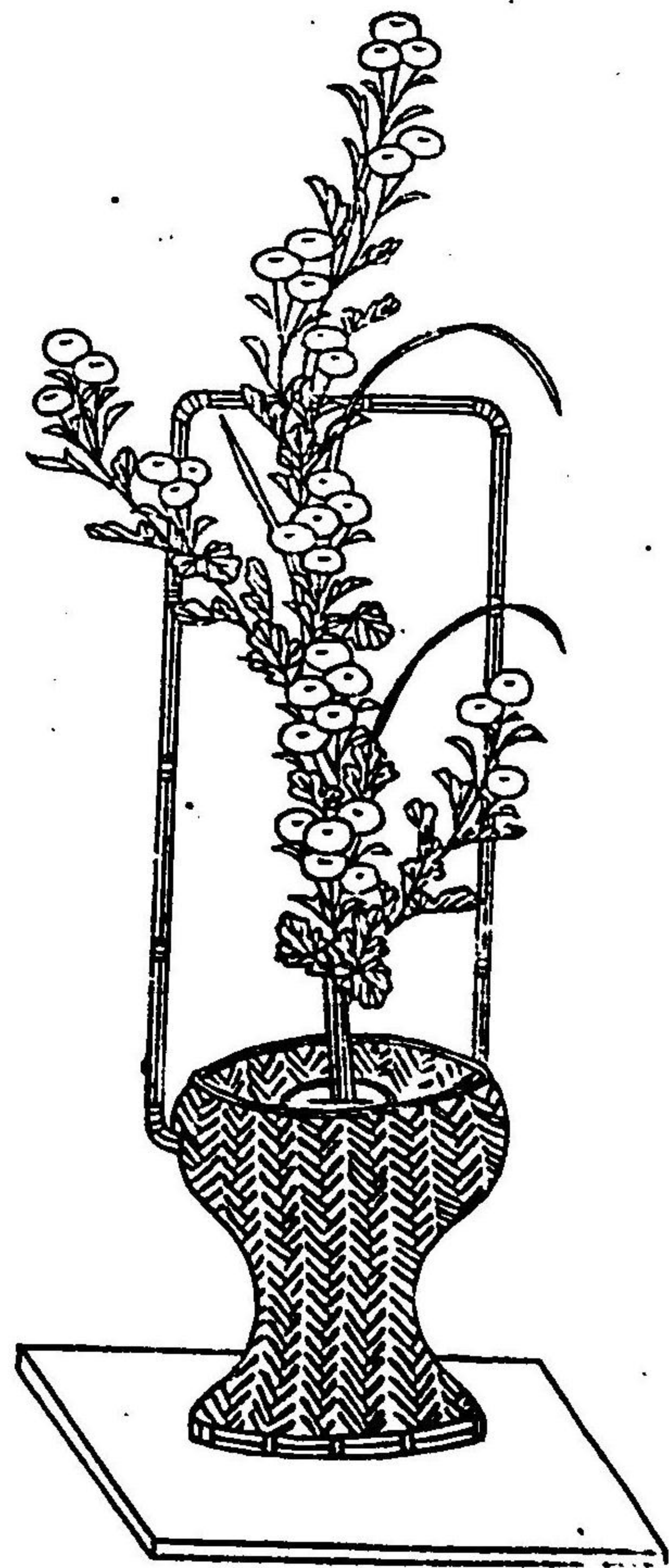
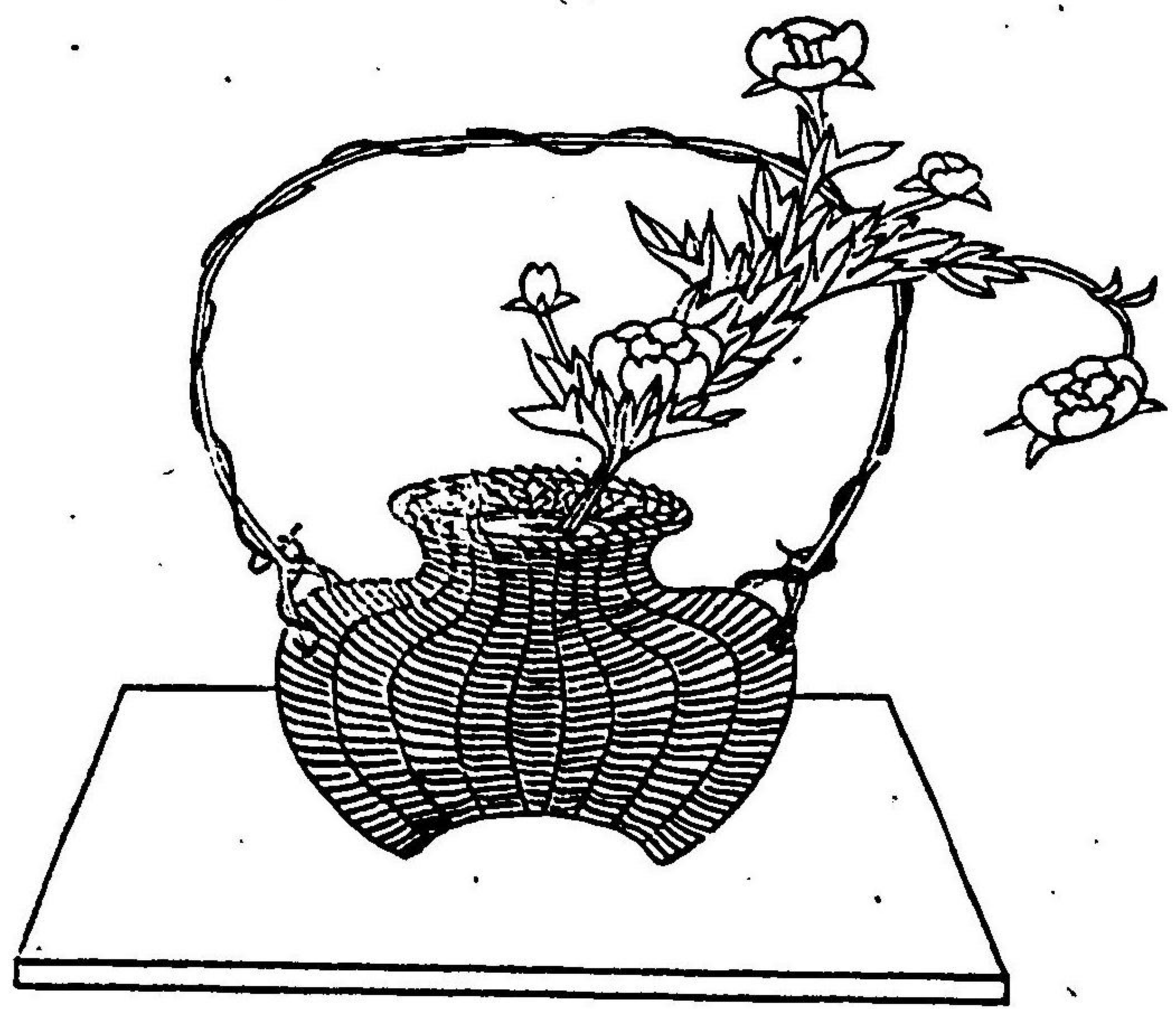
背面之圖

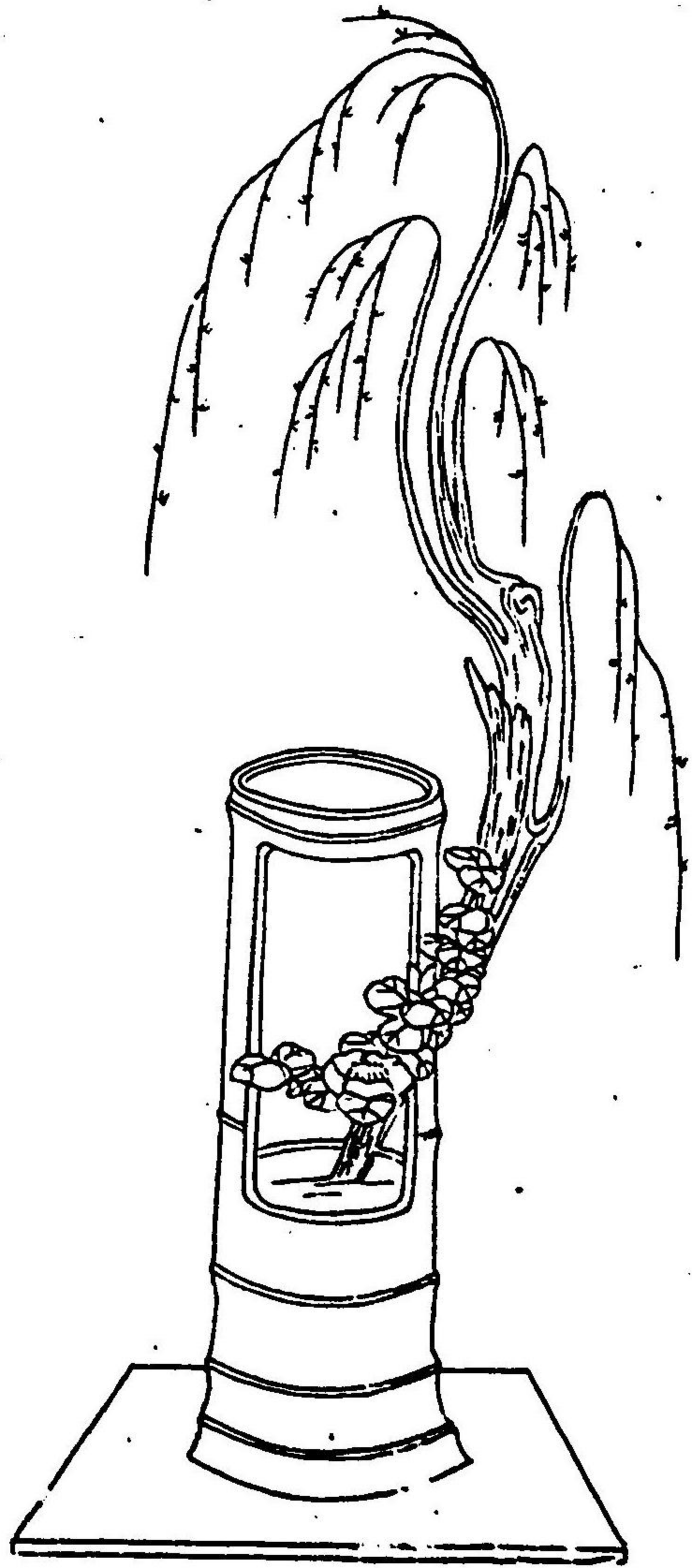


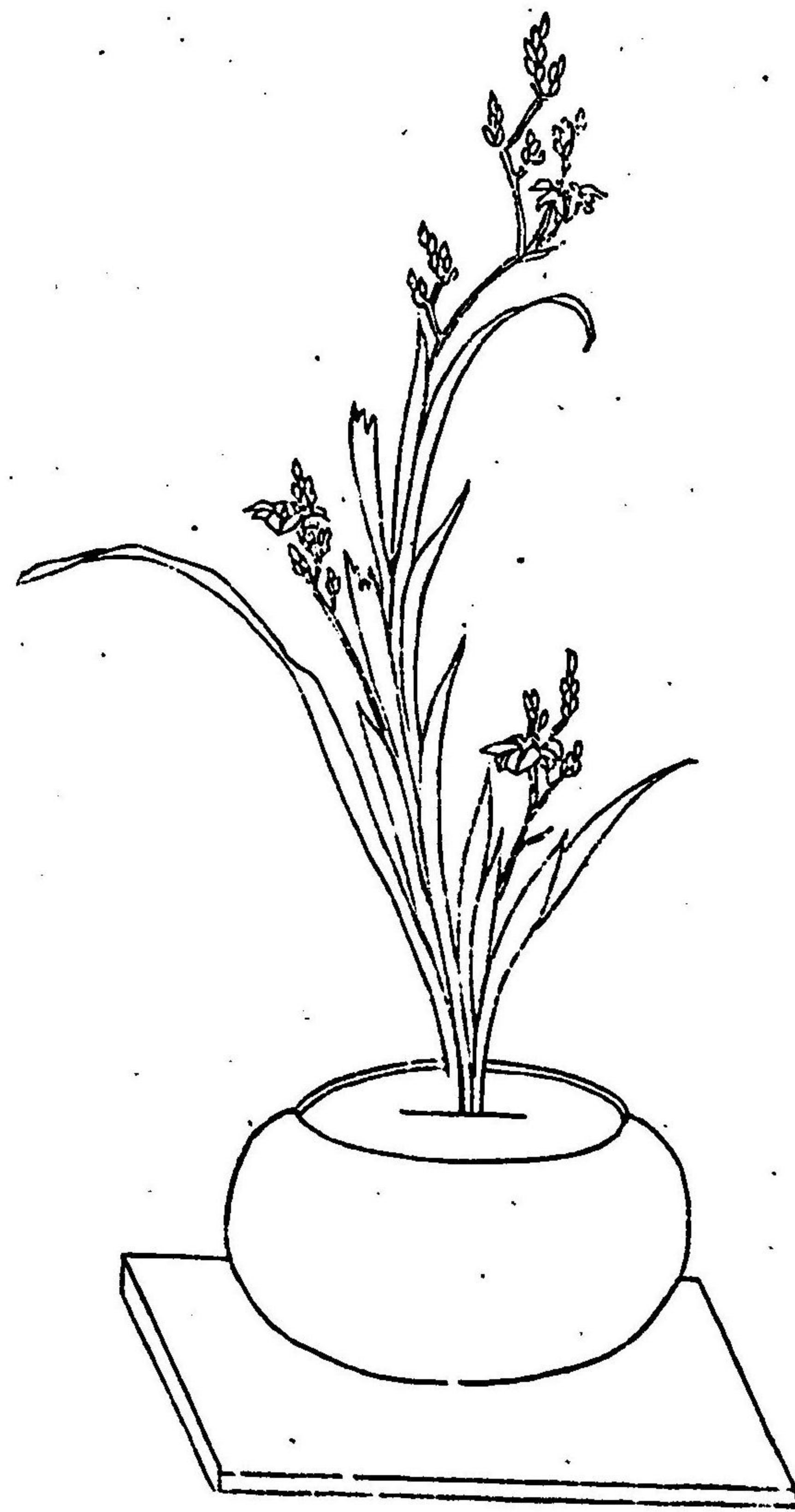
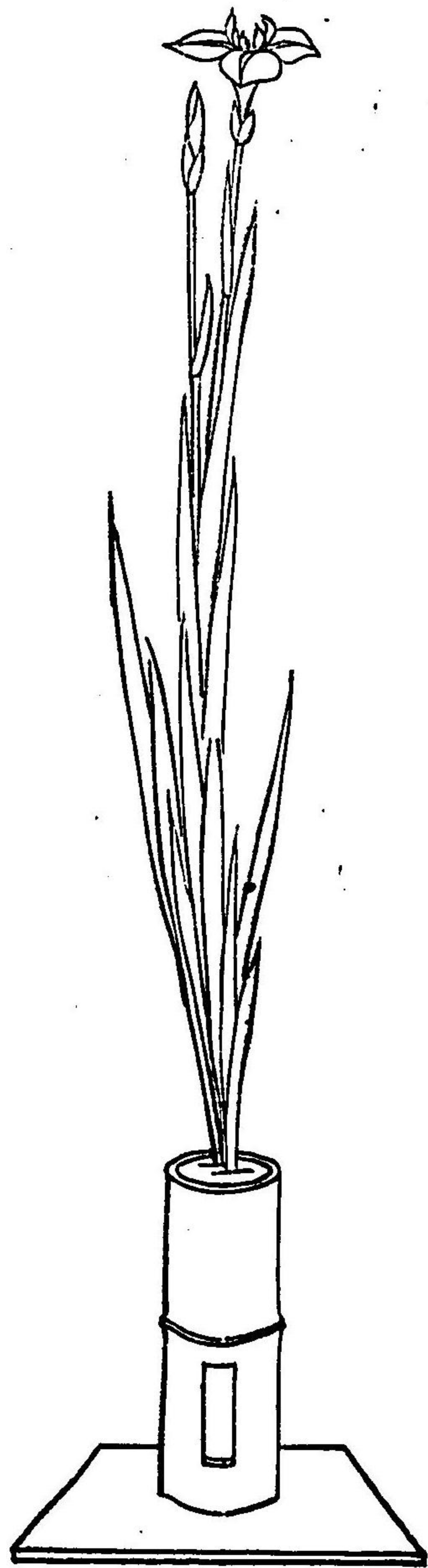


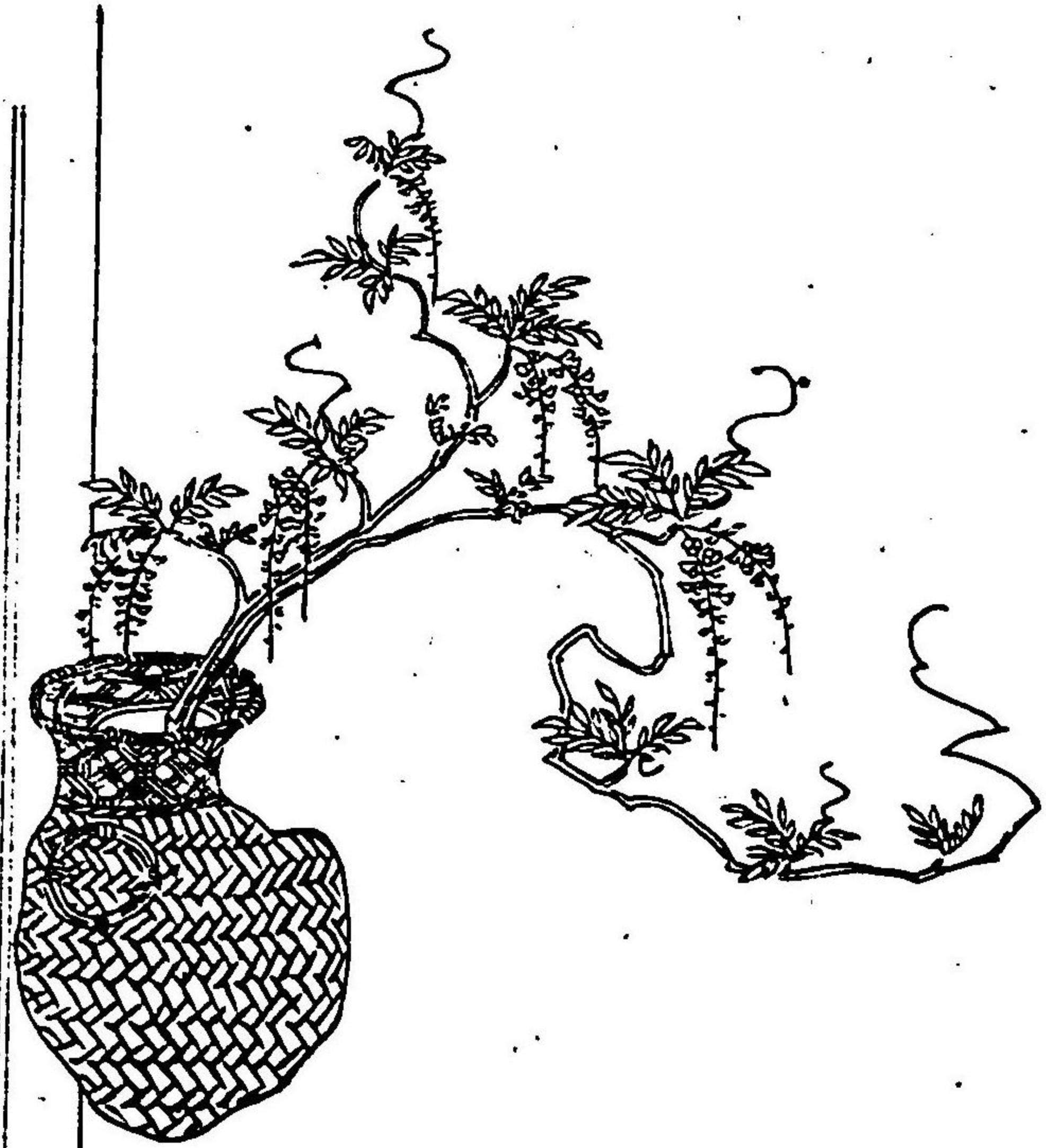












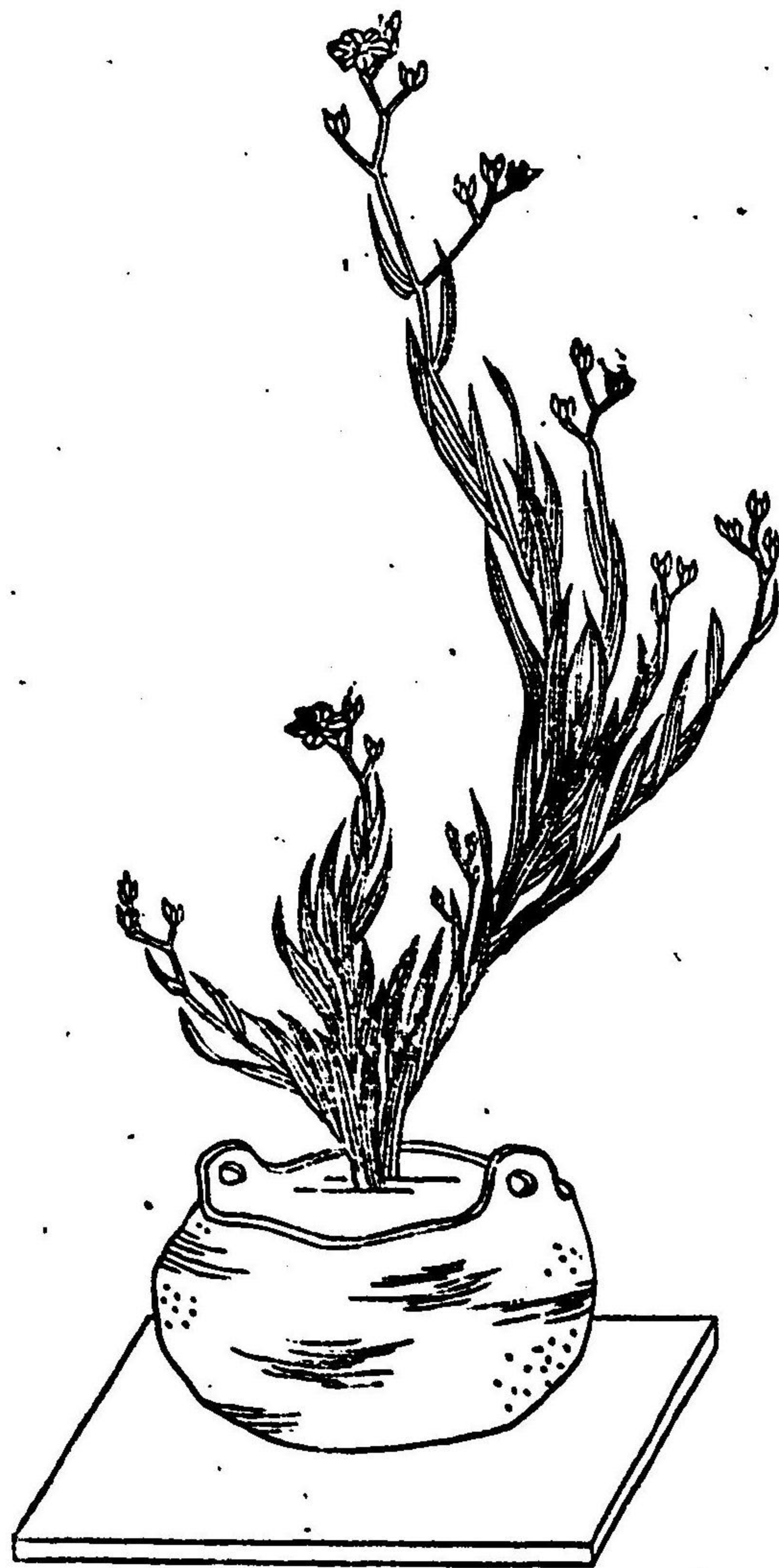


白王女周宮殿示清夜存於  
真於清所奉命甲插之時  
此後二十六年九月廿六日也



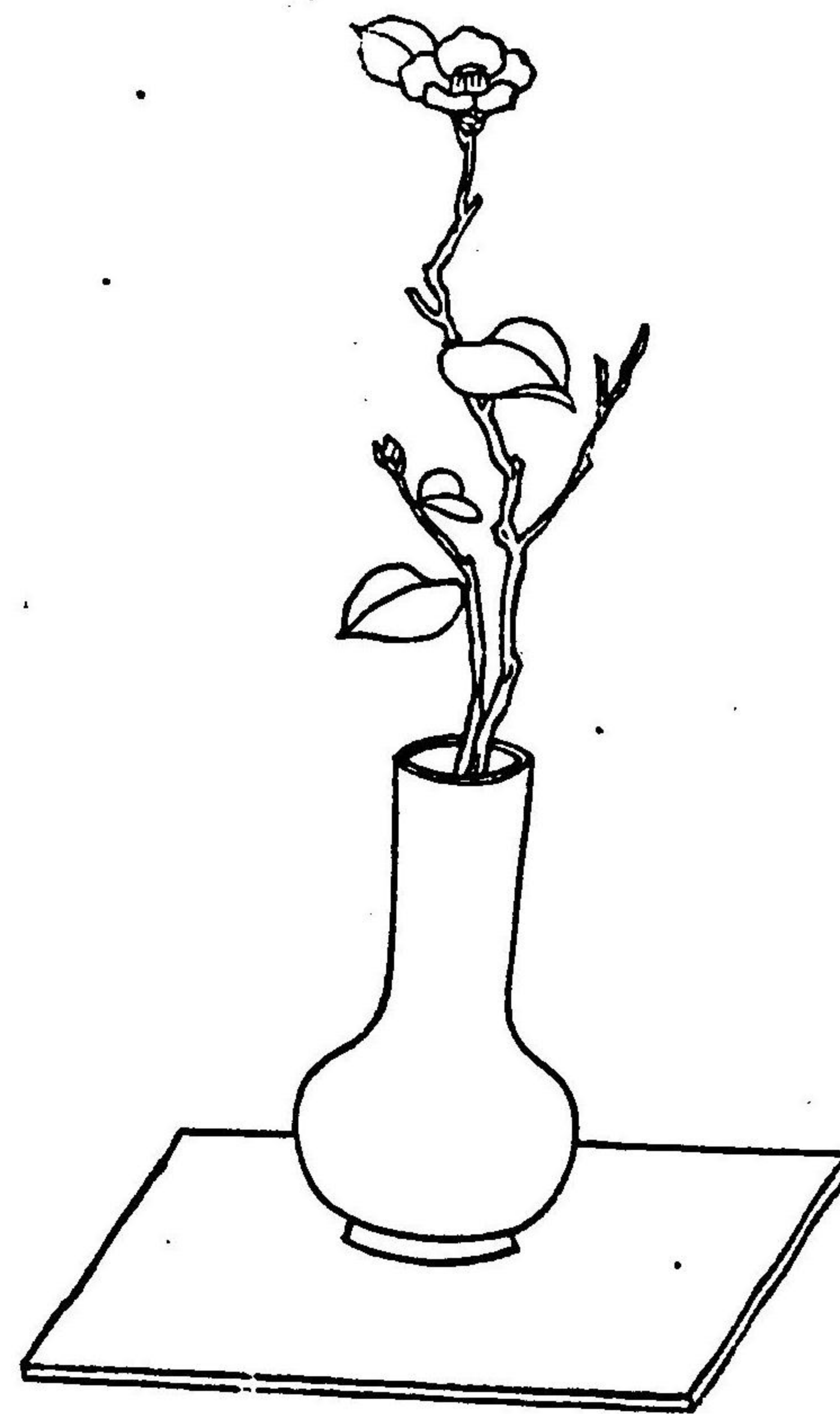
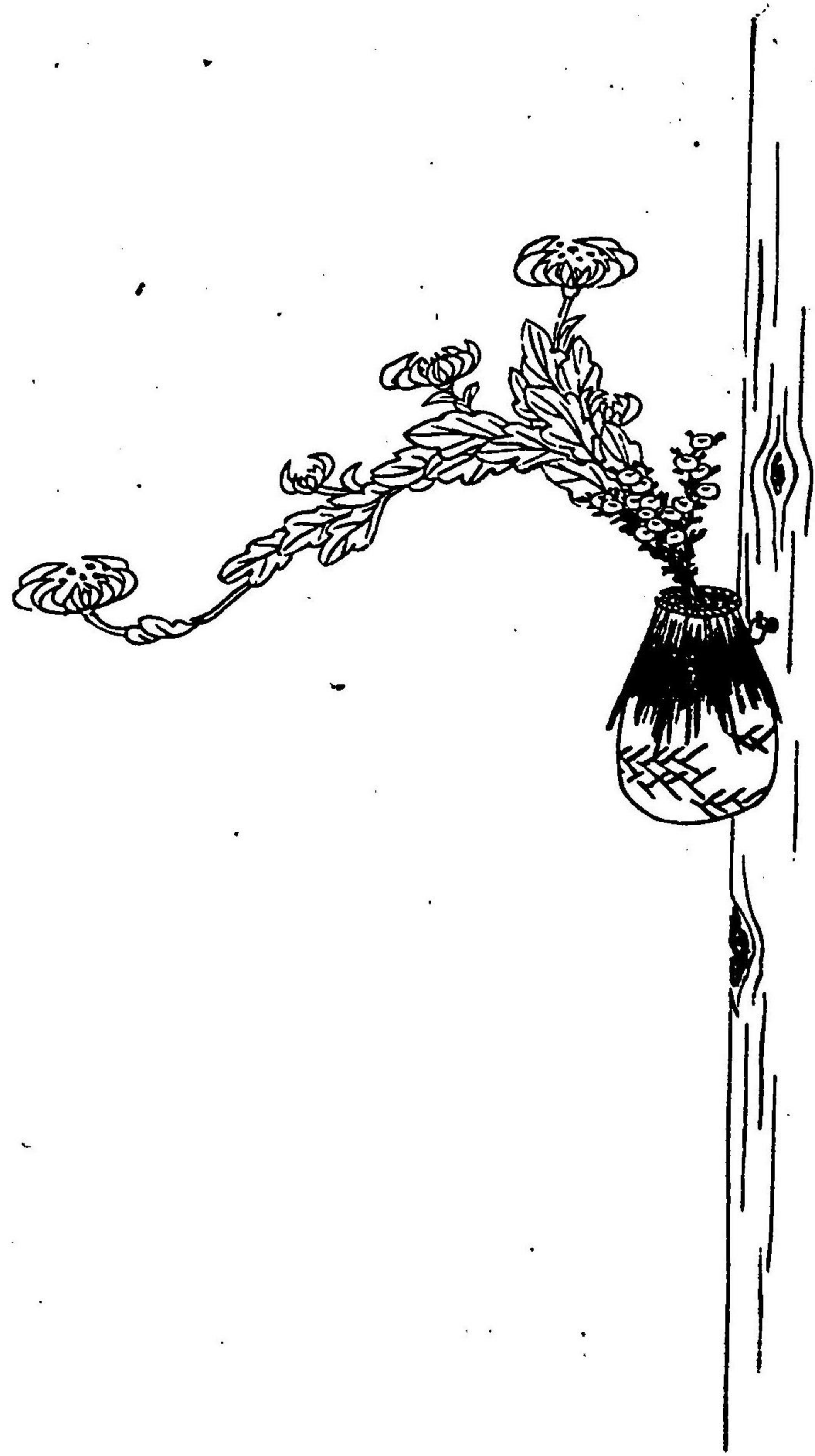
明治十六年九月十日於大垣  
神宮本部  
皇太后神宮廣前献華



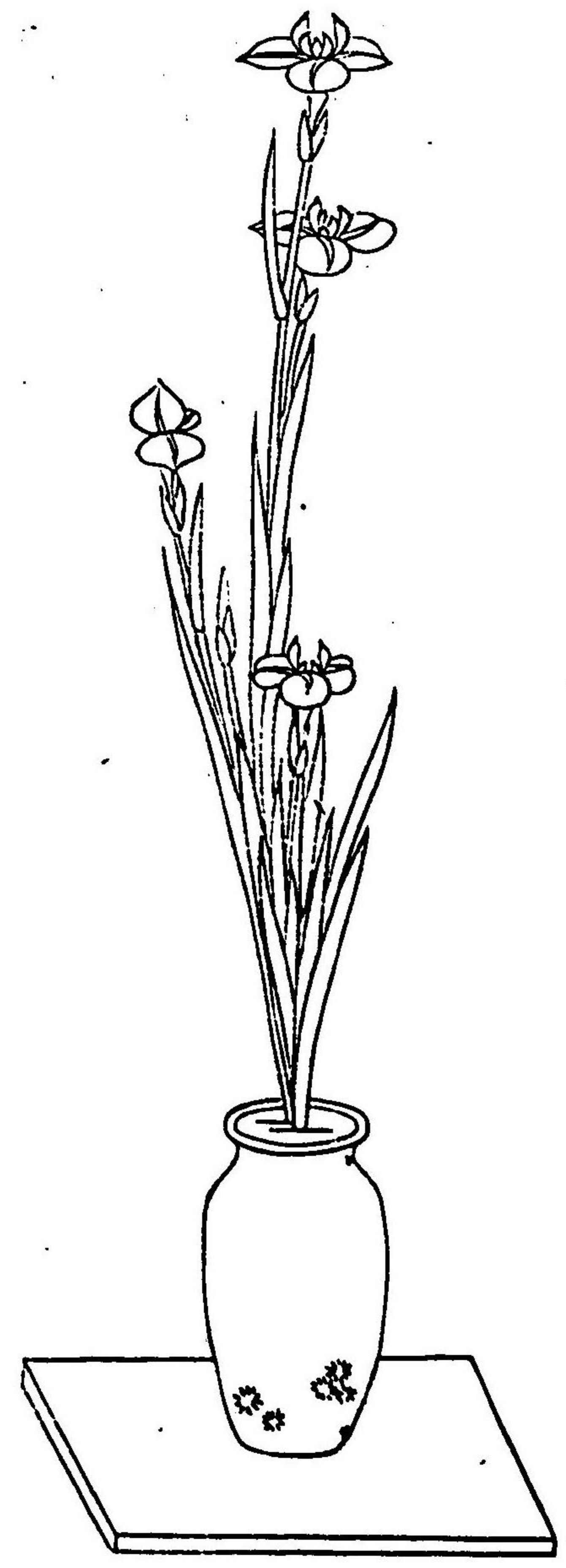


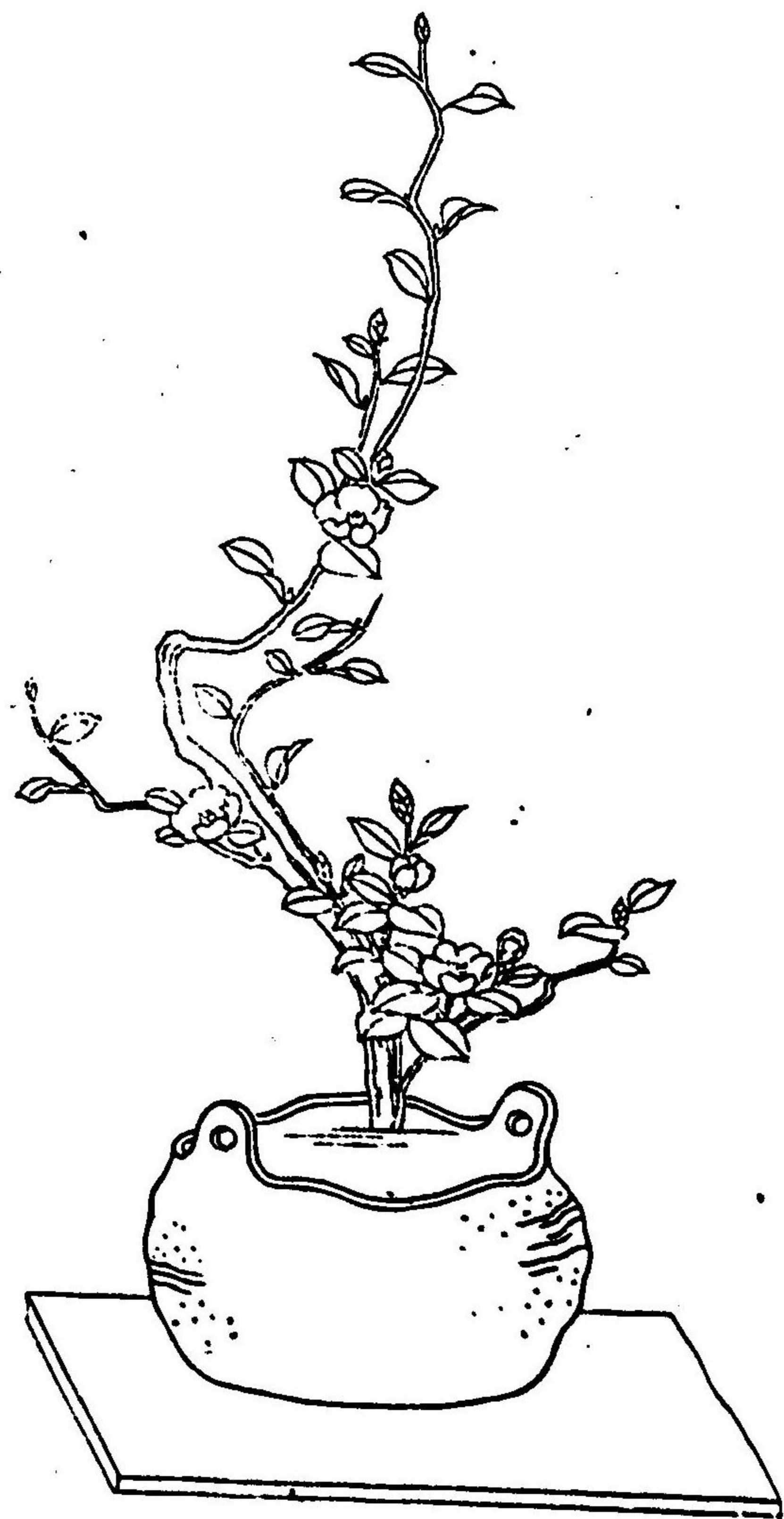




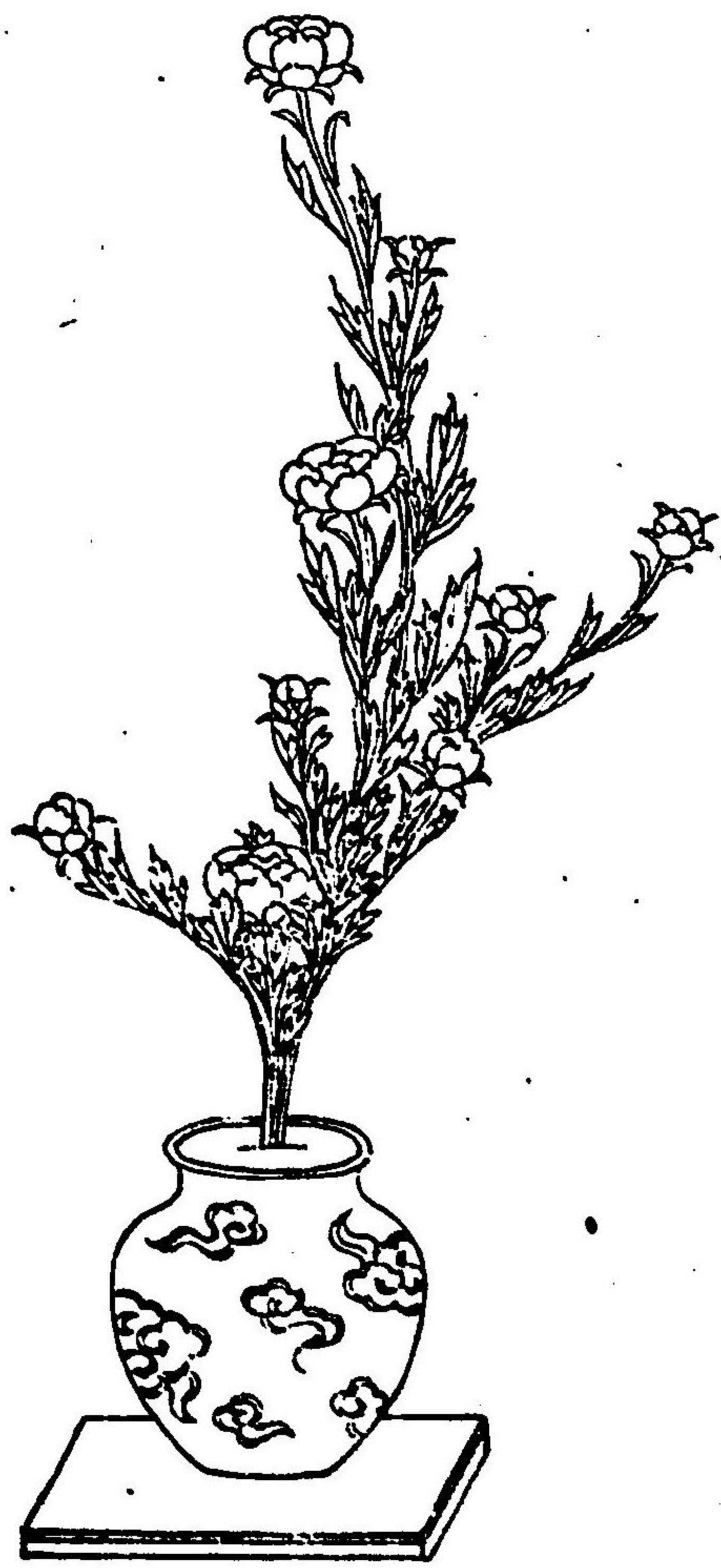
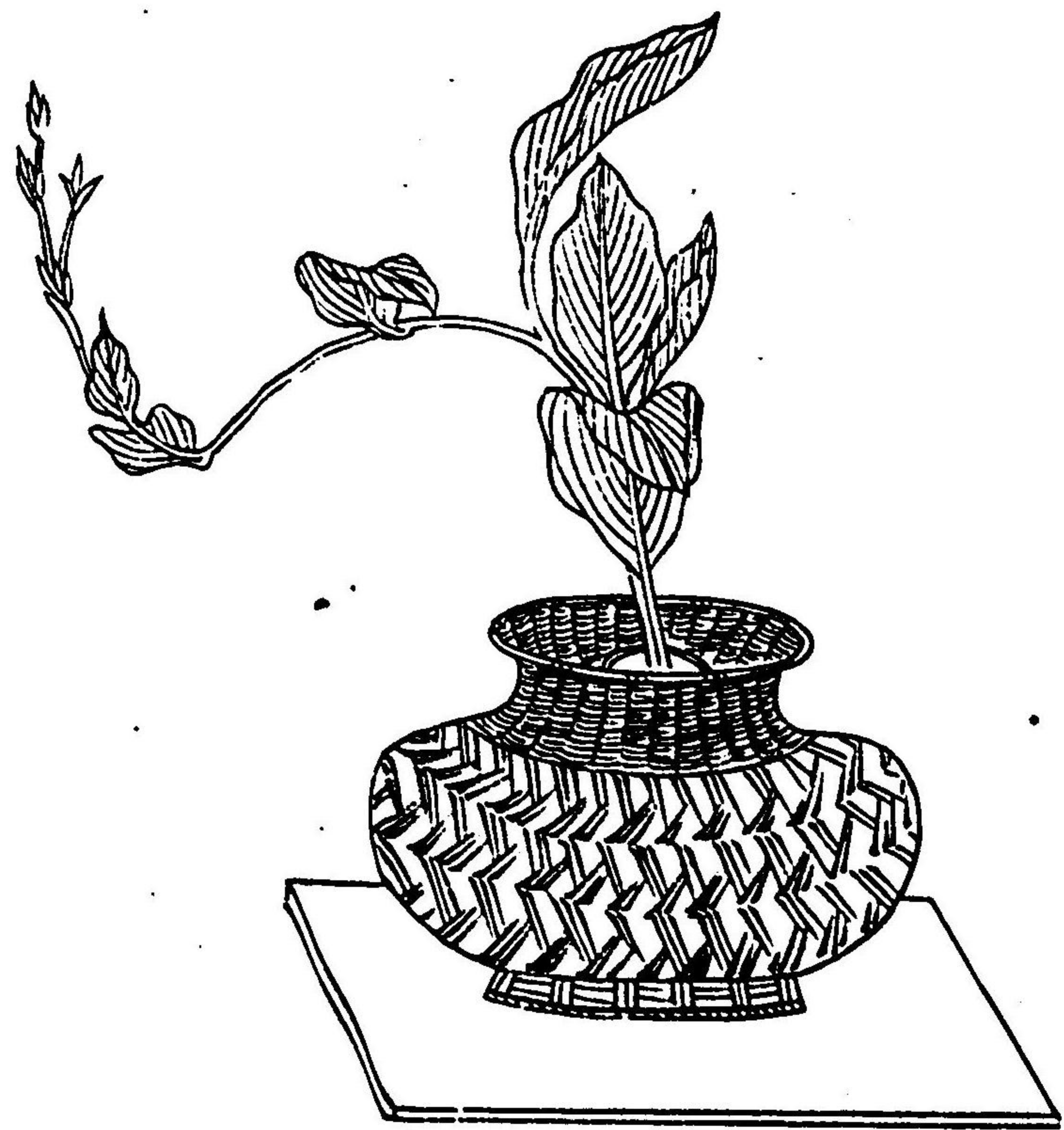


明正十年十一月廿三日  
車駕巡幸吾岷年忽為前一日奉  
令命插此菴糖置於行在兩  
玉座傍 辰間賜  
天覽懼、萬死

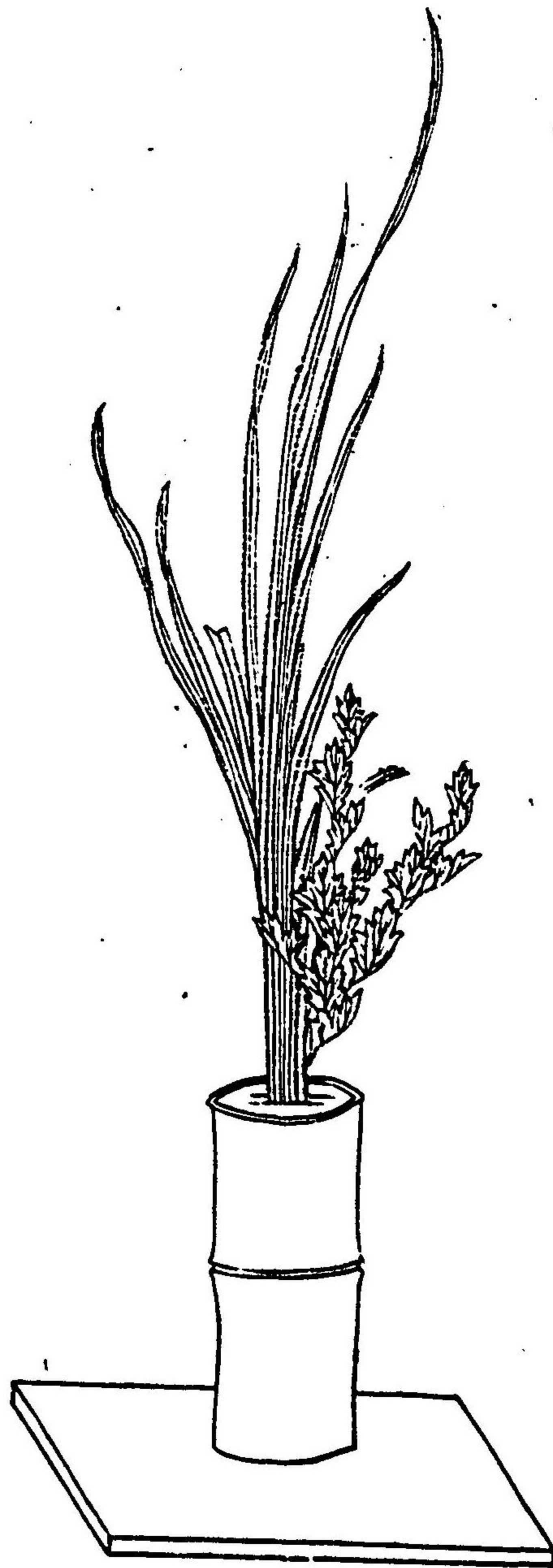


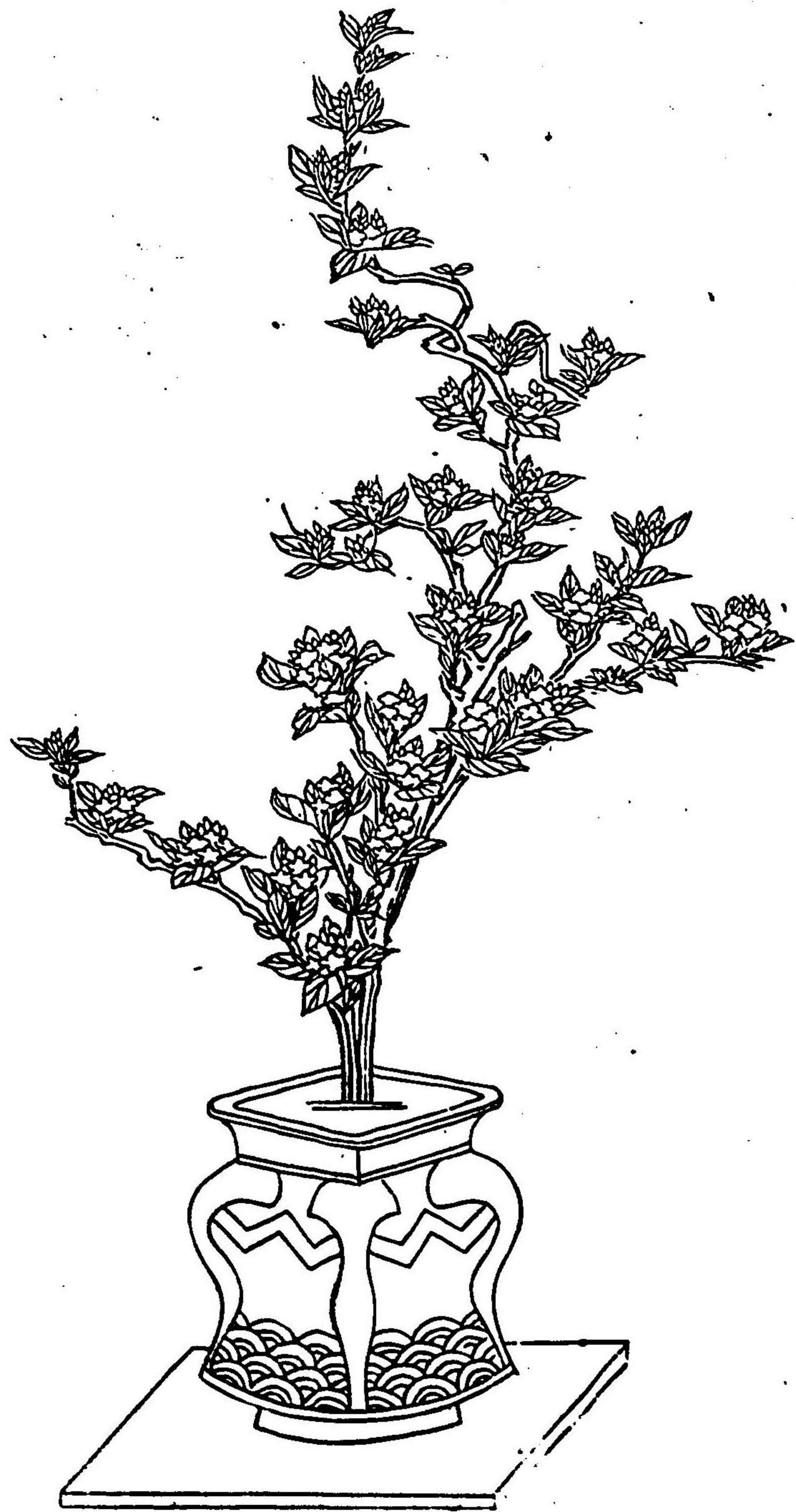






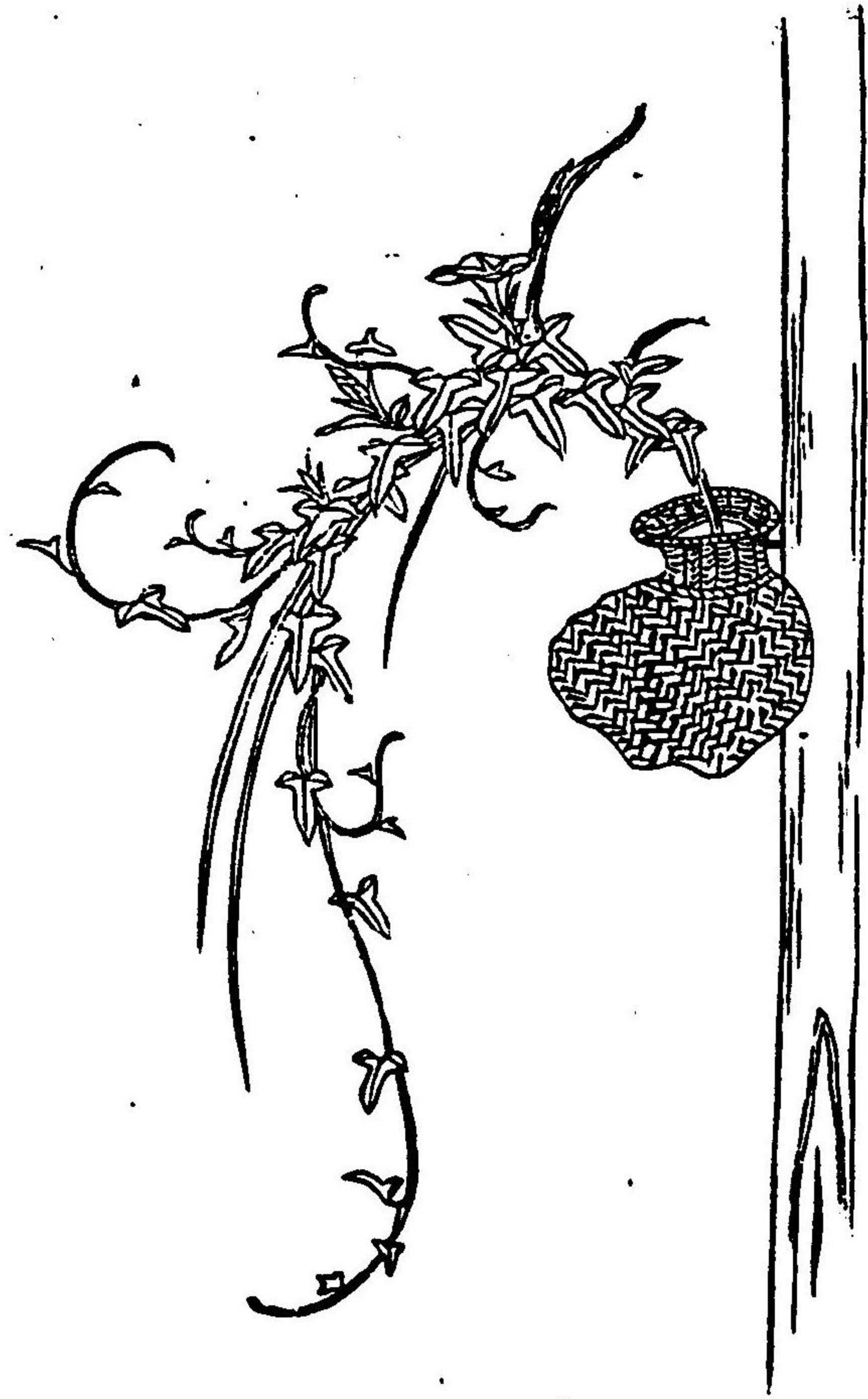
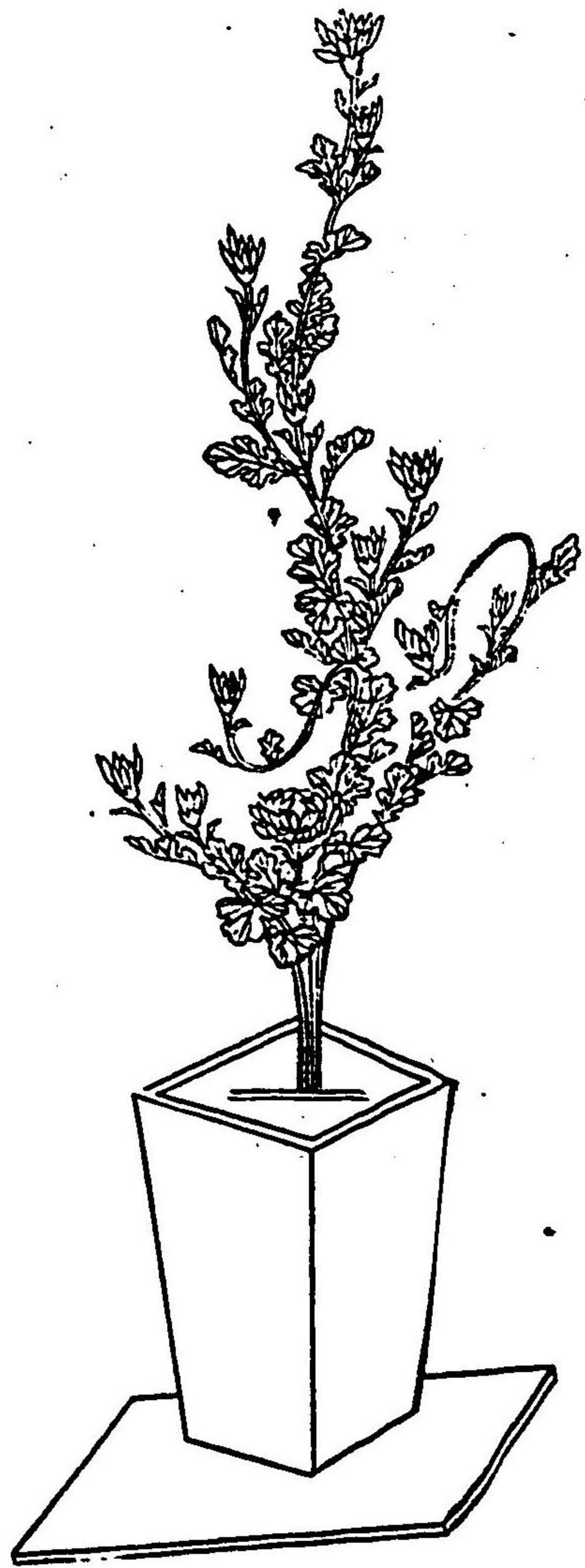
明治廿九年五月廿三日山野妹子大臣三首五十年忌追福會  
於岐阜縣大野郡尾町香園氏 清代花

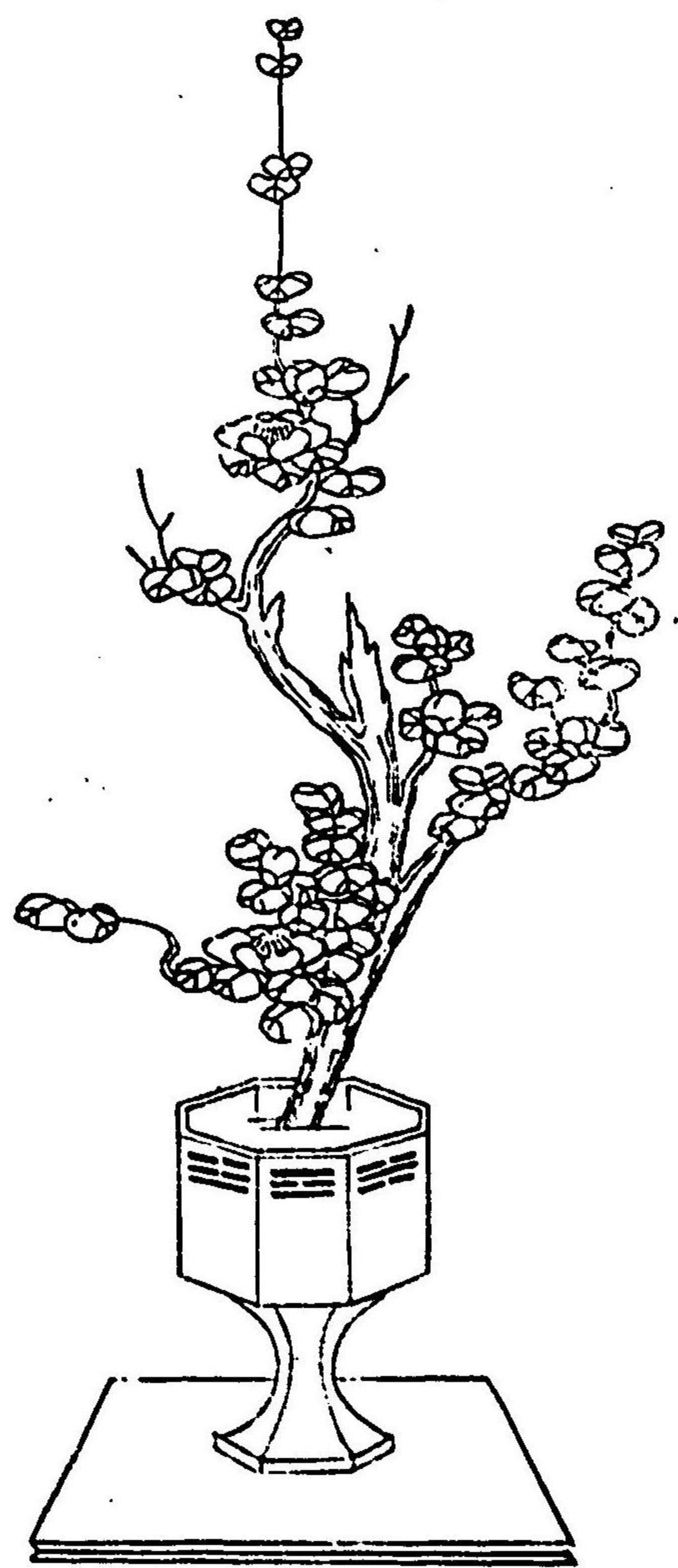


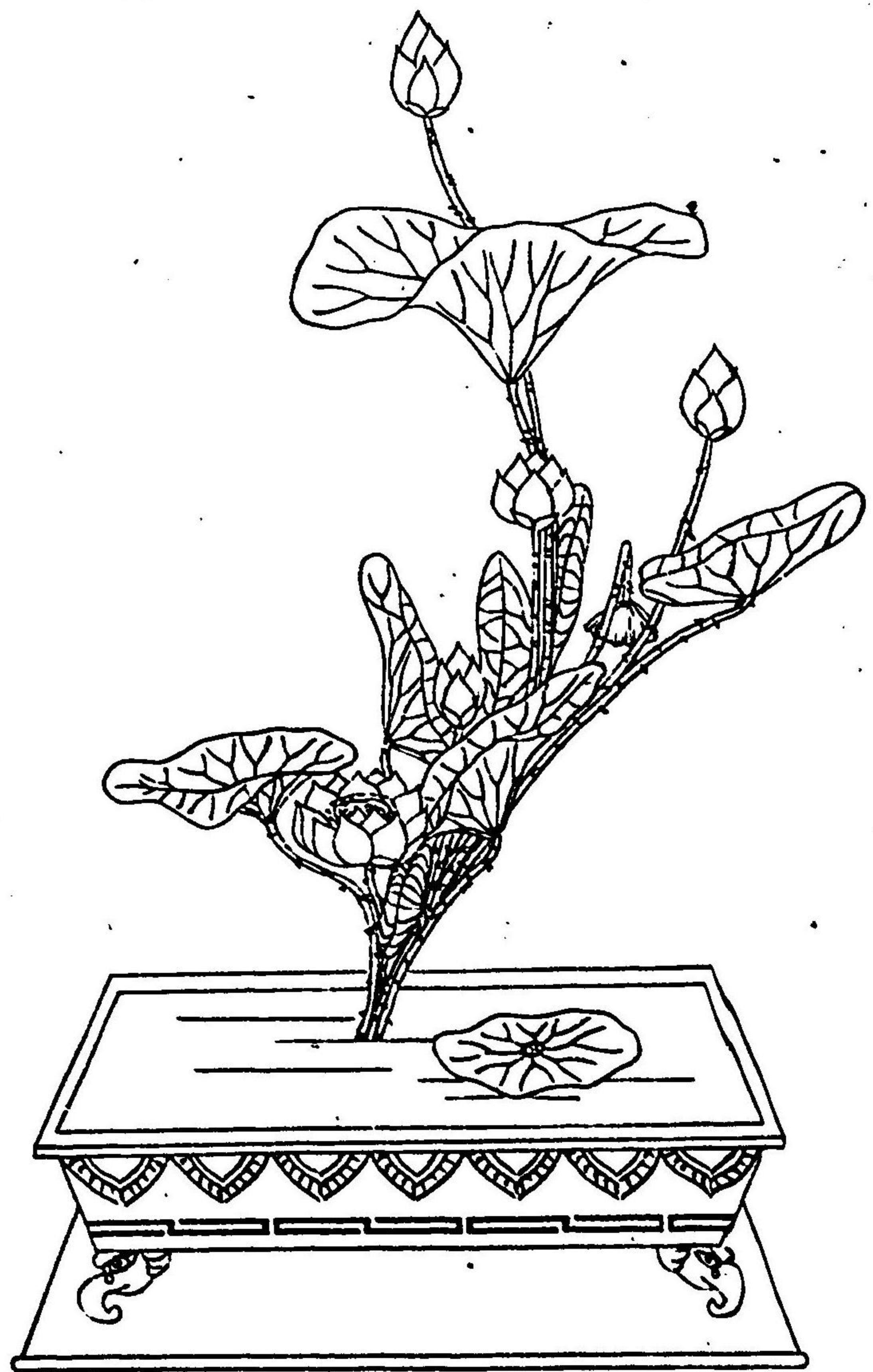


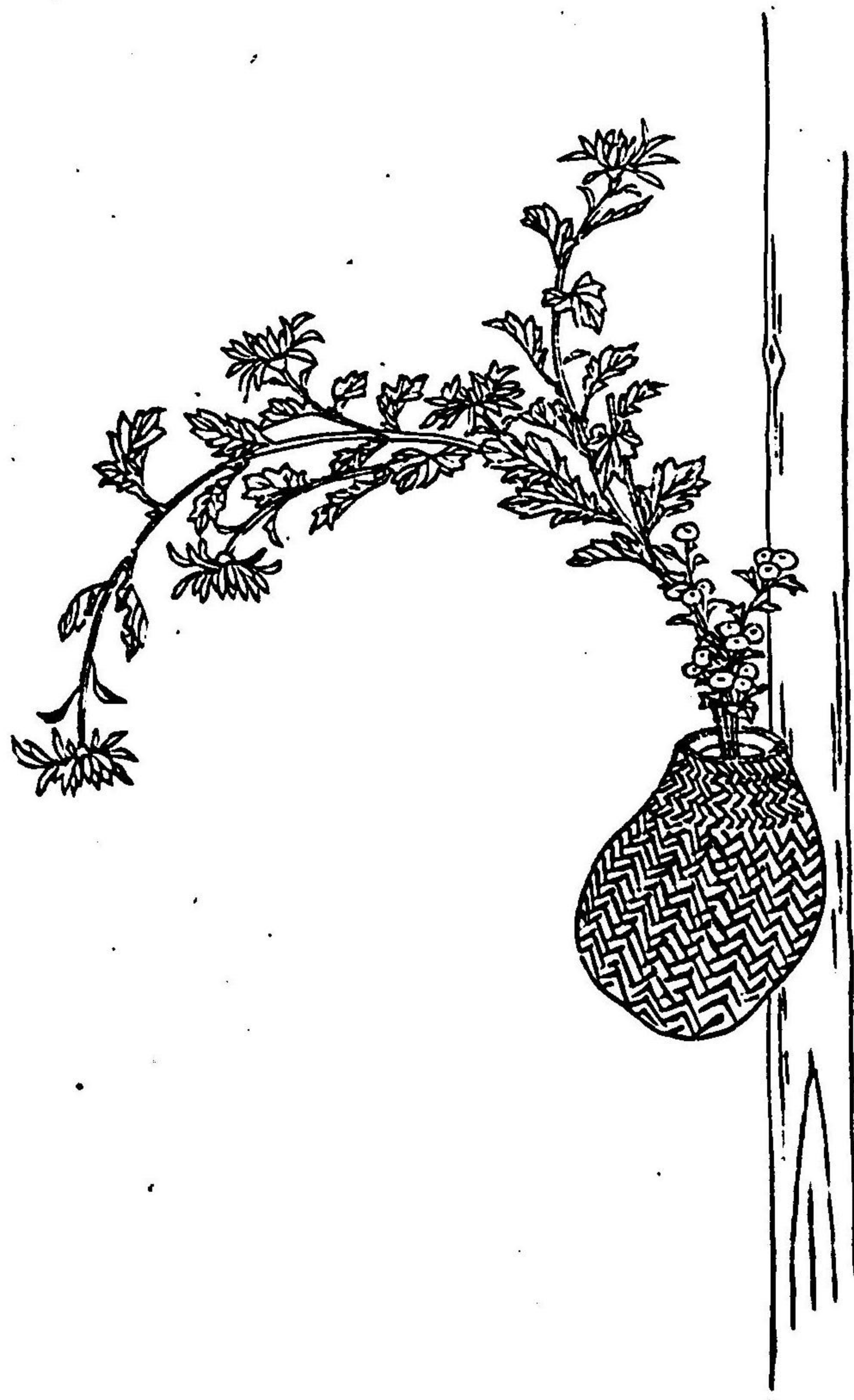


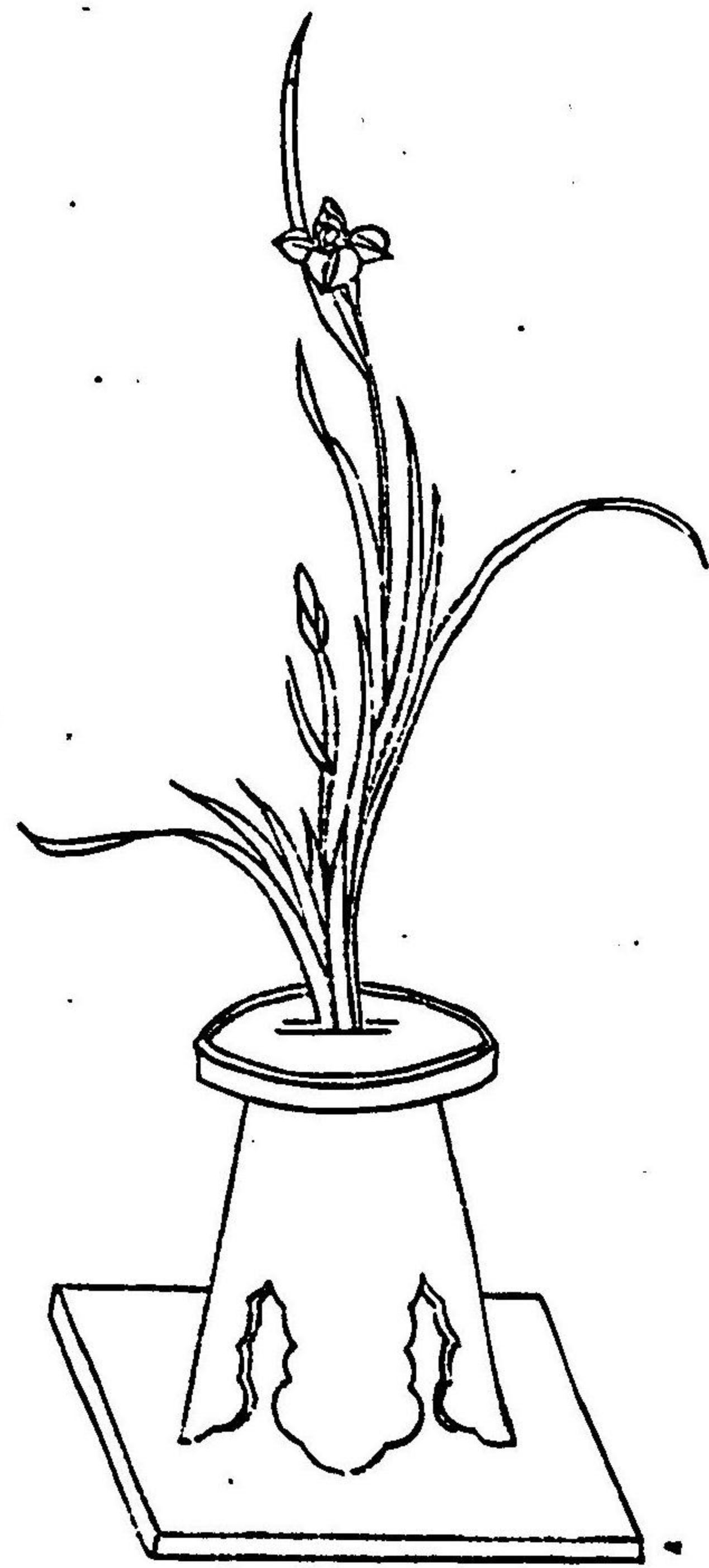
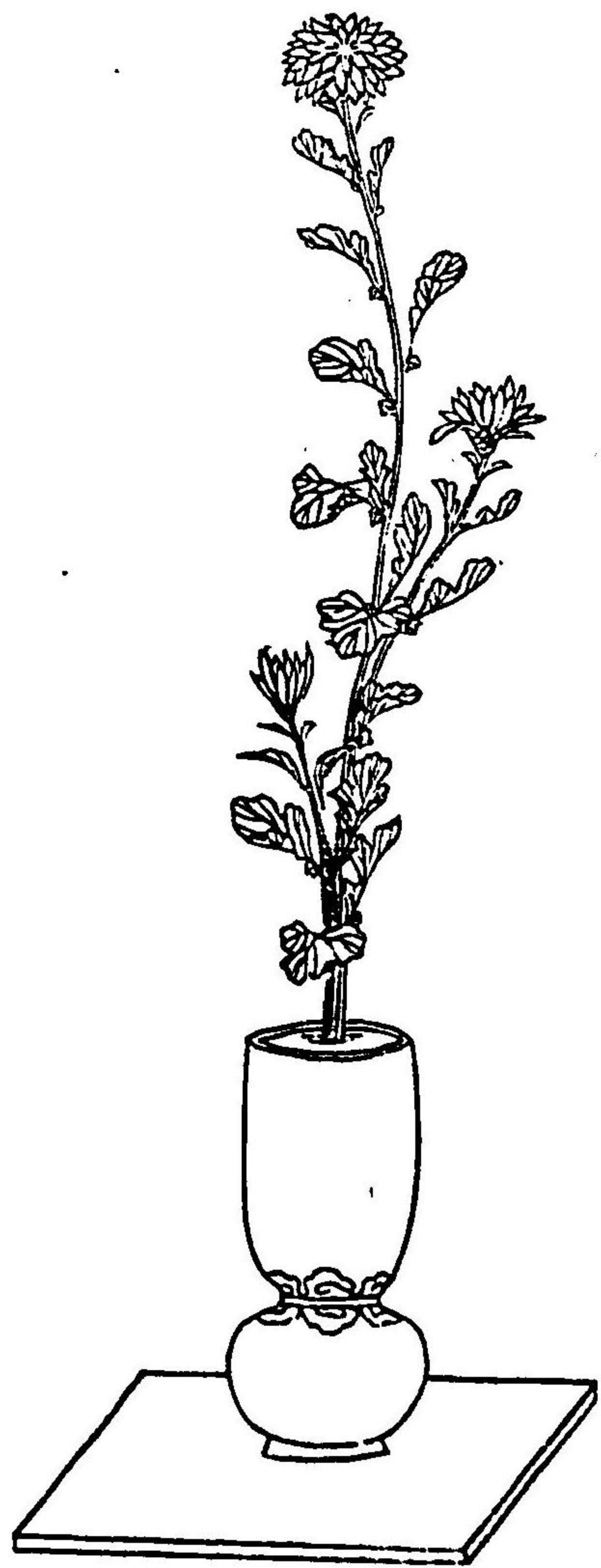








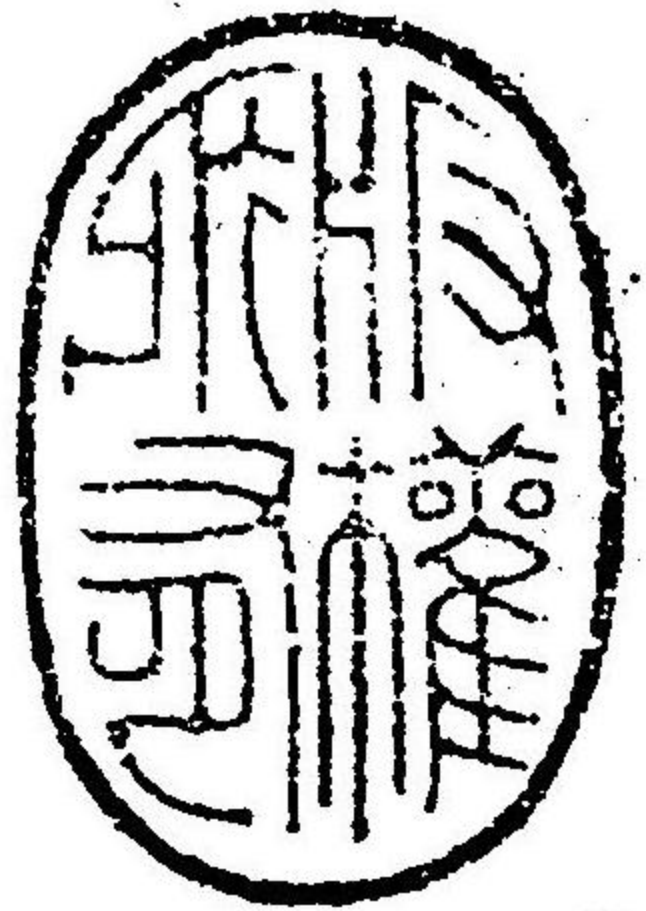












發行兼  
印刷者

著者

明治三十年四月二十日印刷  
明治三十年四月三十日發行

定價金五拾錢

近藤伊三印

近藤伊三印

近藤伊三印  
七番

近藤伊三印

近藤伊三印

近藤伊三印  
三石丸



405

14

